特 集

日本風工学会 40 周年記念

設立 40 周年に思う JAWE Foundation's 40th Anniversary: My Personal Reflection

大熊武司*
Takeshi OKUMA

設立 40 周年おめでとうございます。私は 1980 年の「座談会 風風工学・日本風工学研究会」に際し、初仕事として宮田利雄先生との共同司会をさせていただきました。本座談会は、本会の前身である研究会の事務局が 1979 年に東京に移され、事務局と編集委員会という活動体としての基本組織がスタートした最初の編集委員会企画で、編集委員ではなかったのですが、建築分野の若手研究者の年長クラスということで声を掛けて頂けたようです。

座談会は宮田先生の「風工学というのは比較的耳新しい言葉ですが、(以下略)」から始まりました。建築構造をベースとして耐風構造の研究を始めた当時の私としては、耳新しいというか正直違和感を感じていましたが、新学問分野の土台作りを目標に、牽引役の先生方のお考えをフランクに伺えたことは貴重な経験となりましたし、特に、「社会との関連性」がどのくらい強いのか、「風工学を支える基礎体系」がどのくらい確立できるのか、という視点が印象に残りました。

そこで、私なりに本会の発足・展開の流れを整理してみますと、本会の立ち上げの背景と土台作り：編集委員会が会誌作りで頑張る、→ 会誌の充実、→ 国際的イニシアティブを発揮し始める、→ 学会独自の研究調査活動を開始、→ フォーラム・出張講義等の社会貢献活動を開始、→ 研究会の成果報告書の出版・電子媒体化、→ 体制の充実発展に向けた検討：将来構想の検討、自己点検・

評価、→ 風工学ハンドブックの刊行、→ 社会発信の充実：HP の充実と明快なポータルサイト、→ そして今日、となります。

他方、風工学のテーマの中心（時代の風・要請あるいは先導）については、超高長大構造物：耐風設計法、風揺れ、ビル風、→ 大気境界層の乱流構造、→ 風洞実験技術、→ 風速マップ：各種強風の確率モデル、台風シミュレーション、→ 風災害：外装材、二次災害、実大実験、竜巻などの突風、→ 大気環境：都市・市街地風、汚染物質の停留・拡散、→ 免震・制振建築物・風力・太陽光発電設備・送電設備等：安全性、維持・管理、→ CFD (数値解析技術)：活用、のように徐々に移行あるいは深化していると見ました。

本会の今日の発展は、このような時代の風あるいは要請を的確に捉え、応えてきた結果であると思いますとともに、これからの更なる発展には、本会自身の学術力の源泉である「学術研究会活動」のますますの充実、定期的な「将来構想の検討・自己点検評価」の実施による組織体としての呼吸が大切であると思っています。

ますますのご発展を祈念いたしております。

* 神奈川大学 名誉教授
Professor Emeritus, Kanazawa University

日本風工学会 名誉会員・元会長
Honorary Member and Former President, JAWE